

教宣 せぶん

オシム流「日本」改革

オシムジャパンが誕生し、何かと話題を振りまいていますが、彼の発する一言ひとつは確かに意味深ですし、おもしろいと思います。そんな彼のキャッチフレーズに「考えて走れ」というものがあります。この短い言葉の中には日本人としての特徴・国民性、そしてチームとしての課題が含まれていると言われています。つまり「走る」という言葉には日本人の持つ俊敏性・勤勉性・持久力などの世界に通用する「長所」「売り」が、「考える」という言葉の中には日本が苦手な「独創性」「想像力」「判断力」が表現されています。日本のサッカーや日本人の特性を正確に分析し、その上で克服しなければならない課題、磨かなければならない課題を短い言葉の中でわかりやすく表現されており、彼が「名将」と言われる片鱗を感じます。

国民性というのでしょうか、日本人はことさら組織としてのプレーを大切にします。それはそれで間違いなく長所なのですが、局面を打開しなければならないケースや、格上とのたたかい、負けられない一戦では、個人の判断や独創性・想像力が必要な場面が必ず出てきます。もちろんそれは技術を伴った話ですが、臨機応変な対応が求められるケースや、瞬時の判断が求められるケースで、ベンチからの指示を待っていたり、チームとしての「規律」を重視し過ぎたりしては、千載一遇のチャンスを点に結びつけることはできませんし、局面を打開することはできません。チームとしての方針や規律を大切にしながらも、個人の考える力を養っていくことは世界に通用するサッカーを目指していくうえで、日本に必要な、重要なテーマだと思います。

組織の中に身をおきながら、個人の判断力も同時に養っていかなければならない、ということはチームジャパンのみならず、私たち日本人にも共通のテーマなのではないでしょうか。企業のリコール隠しや偽装・不正問題など、その組織に身を置く者が、組織の「規律」「文化」に流されず、「おかしい」と声を上げることができたなら、続発する企業の不祥事件は未然に防げたかもしれません。

合併以来、私たちは東海経営の理不尽なやり方に「おかしい」と声をあげ続けています。ひょっとしたら、それはオシム流「考えて走る」に相通することなのかもしれません。